



## 子供の成長を共に喜び合いましょう！

運動会も無事に終え、子供たちに求めているのは、運動会の振り返りです。閉会式のときに子供たちには事前予告なしに振り返ってもらっています。これは運動会だけではなく、わくわく集会や音楽集会、また各委員会の発表の後などにも「4つの心」の中のどの心が伸びたのかを振り返ってもらっていて、帯西の教育活動の一端を披露しています。



今回は青团の6年生柏木さんは、「🔴帯西レッドの心が伸びました。わけはフラッグダンスを成功させるという目標をもって、家でもたくさん練習できたし、みんなと高め合って運動会を成功させることができたからです。」と振り返り、「これから委員会とか司会とかできていないので、もっと上の役割を探していこうと思いました。」と今後に生かしたいことを述べてくれました。また白団4年の金子さんは「🔴帯西レッドが伸びました。徒競走でゴールまで走り抜けるという目標を立てていましたが、それを達成することができたからです。」と振り返り、「他の行事などで目標を立て、その目標に向かって全力で取り組みたいです。」と述べてくれました。最後に赤団1年の坂口さんは「🟡帯西ブルーの心が伸びました。がんばったからです。次もかけっこをがんばりたいです。」と述べました。

このように、毎回子供たちが振り返る共通の評価の「ものさし」は、「4つの心」であり「心のパズル」です。これによって、皆が共通の土俵の上で自分や友達の成長を実感することができます。この力は社会の中でも注目される力で、自己認知力やメタ認知力とも言われています。この力が高いとより高いパフォーマンスで仕事に当たれるといいます。自己認知=自分自身の意識、メタ認知=自分を通り越した他者の視点から見た自分の意識という違いがあり、メタ認知力がより高度な俯瞰した見方ができると言えます。自己認知力は、「自分が分かる→家族が分かる→友達が分かる→社会的役割が分かる」という順番で発達しています。まさに「帯西レッド→帯西グリーン→帯西イエロー」の順番です。そして自己認知力やメタ認知力は、小学4年生頃から高まります。これらの「自分を客観視できる力」は、意識して取り組むほどその効果は高まり、自律的に自分の生活や学習を改善していき、人間的な成長に繋がります。その力を伸ばすためには、子供に明確な目標や目的を考えるように促すことが大切です。帯西では、例えば運動会では「こんな運動会にしたい」という目標を子供たち一人一人に考えてもらいます。そして、その目標に到達するまでの様々な方法を考えます。その中から自分に合った方法を選び、より具体的な方法にするために、時間・回数・相手・場所・実現可能かなどの視点を入れて、自分のめあてとします。この方法を選び抜く力も、自己認知力やメタ認知力を高めるために大切です。これらの力が付くと、問題が起きた時に、より能力が発揮され、物事の本質を理解し、迅速かつ冷静に分析して状況を判断し、最適な解決方法を見つけることができると言われています。子供たちの道徳性を高めつつ、自分を客観視させながら、これからの社会を生き抜く力を自然と身に付けさせ、子供たちの幸せな生活の実現を願っています。

だからこそ、運動会などでの振り返りを行い、周りの大人たちも子供たちの成長を共に喜び合うことで、子供たちには次への意欲に結び付けて欲しいと思っています。